



佐世保の

近代化遺産

鎮守府のまちに715件

近年、群馬県の「富岡製糸場」や本県の「端島^{はしま}（通称「軍艦島」）」などが世界遺産に登録され、全国的に注目されるようになった「近代化遺産」。明治時代、鎮守府設置を契機に発展を遂げてきた本市には、この近代化遺産が700件以上も残されており、その多くは今もなお現役として使用されながら往時の歴史を伝え続けています。今回の特集では、日本の近代化遺産や本市の近代史などを振り返りながら、本市の近代化遺産を7つの視点で紹介します。



西洋に追い付き、追い越せ

平成26年、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録され、大勢の観光客が訪れる様子がテレビなどで大きく報道されました。さらに昨年は「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である端島(通称「軍艦島」)などが本県で初めて世界遺産の仲間入りをするなど、近年、「近代化遺産」が大きな話題となっています。

近代化遺産とは、幕末から昭和30年代ごろまでに、西洋から導入された工法で建設された建造物や構造物のうち、日本の近代化の歩みを象徴するものや近代化に貢献したものを総称した呼び名です。

私たちが日頃使っている水や電気、交通などの都市基盤をはじめ、生活を支える産業・文化の多くは、この時代に先人たちが「西洋の技術に追い付き、追い越せ」と必死につくり上げてきた施設やシステムが礎となっています。

近代化遺産には、そうした先人たちの情熱や知見が詰まっており、そのまちが歩んできた歴史を今に伝えています。

老朽化施設から重要文化財へ

今でこそ、その価値が広く認められている近代化遺産ですが、欧米諸国で古くから歴史遺産として認識されていた産業

遺産と異なり、戦後、高度経済成長を遂げてきた日本では、時代が進むにつれ、老朽化した探算の取れない施設として「取り壊し」や「改変の危機に直面し、やむなくその役目を終える施設も少なくありませんでした。

しかし、昭和末期ごろになると、老朽化した施設に価値を見出し、取り壊すよりも歴史遺産として地域振興などに活用したいという自治体が次第に増え、国に保護を求める声も大きくなっていました。

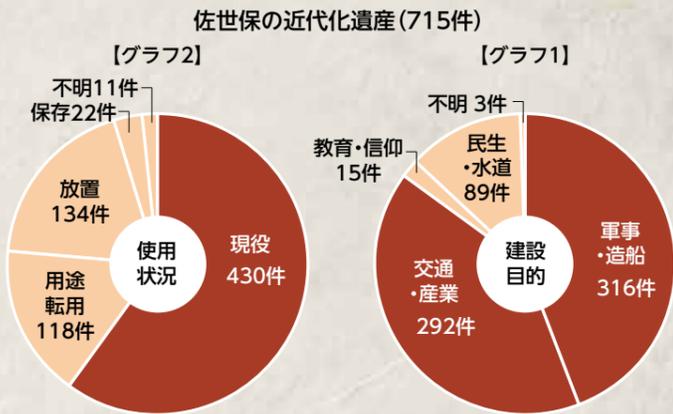
平成2年、文化庁はそうした状況を受け、全国の都道府県を対象に「日本近代化遺産総合調査」を初めて実施しました。その結果を踏まえ、同5年には、国の重要文化財に新たに「近代化遺産」の種別が設けられ、同年「碓氷峠鉄道施設(群馬県安中市)」「藤倉水源地水道施設(秋田市の2カ所が初めて重要文化財に指定されました。

現在、重要文化財の「近代化遺産」という種別は「近代/産業・交通・土木」に変更され、本市の「旧佐世保無線電信所針尾送信所施設」を含む全国67の施設等が指定されています。このほか本市の近代化遺産では「佐世保市民文化ホール(旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)」や「佐世保

重工業250ト起重機(クレーン)」「旧佐世保鎮守府武庫預兵器庫」が登録有形文化財に指定されています。

715件の近代化遺産

明治19年、佐世保に鎮守府を設置する旨の勅令が公布され、本市はこれを契機として急速に発展を遂げてきました。東洋一の係船池や250トクレーン、巨大な無線塔、急速な人口増加に対応する水道施設などが当時日本最高と称された技術陣によって次々に建造され、鉄道や炭坑関係の施設も時代とともに整備されていきました。本市には、そうした歴史を



物語る近代化遺産が実に715件(平成28年1月現在)も存在しており、全国屈指の数を誇っています。

グラフ1、2は本市の近代化遺産の特徴を示したものです。建設目的で分類したグラフ1では、「軍事・造船」「交通・産業」に該当するものが全体の約85%を占めており、鎮守府に関係するものが圧倒的に多いことが分かります。

また、現在の使用状況を表したグラフ2は、今も建設当初の目的のまま現役で使用続けられているものが半数以上もあることを示しており、本市の近代化遺産の大きな特徴になっています。

世界遺産と日本遺産

わがまちの近代化遺産をまちづくりに活用しようとする気運が全国的に高まる中、本市の「黒島天主堂」を含む「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産への登録の可否が、いよいよ本年夏ごろに決定します。

また、本市は本年、横須賀市、呉市、舞鶴市と連携し、「旧軍港4市の近代化遺産」を文化庁の「日本遺産」に申請することとしており、その認定の可否も4月ごろまでには決定される見込みになっています。ことしは近代化遺産関連の嬉しいニュースが続きますが、詳細については決定次第、本紙やホームページなどでお知らせしますので、どうぞお楽しみに。

佐世保の近代化遺産に関わる主な出来事

1886(明治19)年	鎮守府設置の勅令
87(20)年	佐世保鎮守府開庁
88(21)年	海軍上水道完成
89(22)年	
90(23)年	
91(24)年	
92(25)年	
93(26)年	
94(27)年	日清戦争開戦
95(28)年	海軍工廠第一船渠完成
96(29)年	
97(30)年	鉄道開通(早岐-武雄)
98(31)年	鉄道開通(早岐-佐世保)
99(32)年	松浦炭坑鉄道開通(世知原-小浦)
1900(33)年	岡本貯水池完成
01(34)年	
02(35)年	佐世保市制施行
03(36)年	黒島天主堂完成
04(37)年	平瀬倉庫群完成
05(38)年	日露戦争開戦
06(39)年	海軍工廠第三船渠完成
07(40)年	
08(41)年	山ノ田貯水池完成
09(42)年	
10(43)年	
11(44)年	
12(大正元年)	松浦炭坑事務所完成
13(2)年	250トクレーン完成
14(3)年	海軍工廠第四、六船渠完成
15(4)年	
16(5)年	立神係船池完成
17(6)年	
18(7)年	
19(8)年	
20(9)年	軽便鉄道開通(相浦-柚木)
21(大正10)年	
22(11)年	軽便鉄道開通(大野-上佐世保)
23(12)年	針尾送信所完成
24(13)年	鎮守府凱旋記念館完成
25(14)年	
26(昭和元年)	山ノ田第一浄水場完成
27(2)年	市営バス運行開始
28(3)年	転石貯水池完成
29(4)年	
30(5)年	
31(6)年	三浦町教会完成、佐世保鉄道開通(美盛谷-白ノ浦)
32(7)年	
33(8)年	
34(9)年	
35(10)年	国鉄伊佐線開通(佐世保-北佐世保)
36(11)年	
37(12)年	
38(13)年	
39(14)年	
40(15)年	
41(16)年	
42(17)年	
43(18)年	
44(19)年	
45(20)年	
46(21)年	
47(22)年	
48(23)年	
49(24)年	
50(25)年	
51(26)年	朝鮮戦争開戦
52(27)年	
53(28)年	
54(29)年	
55(30)年	西海国立公園指定

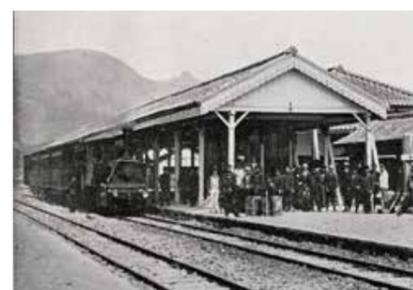
佐世保鎮守府庁舎



工事中の海軍工廠第一船渠



開業当時の佐世保駅

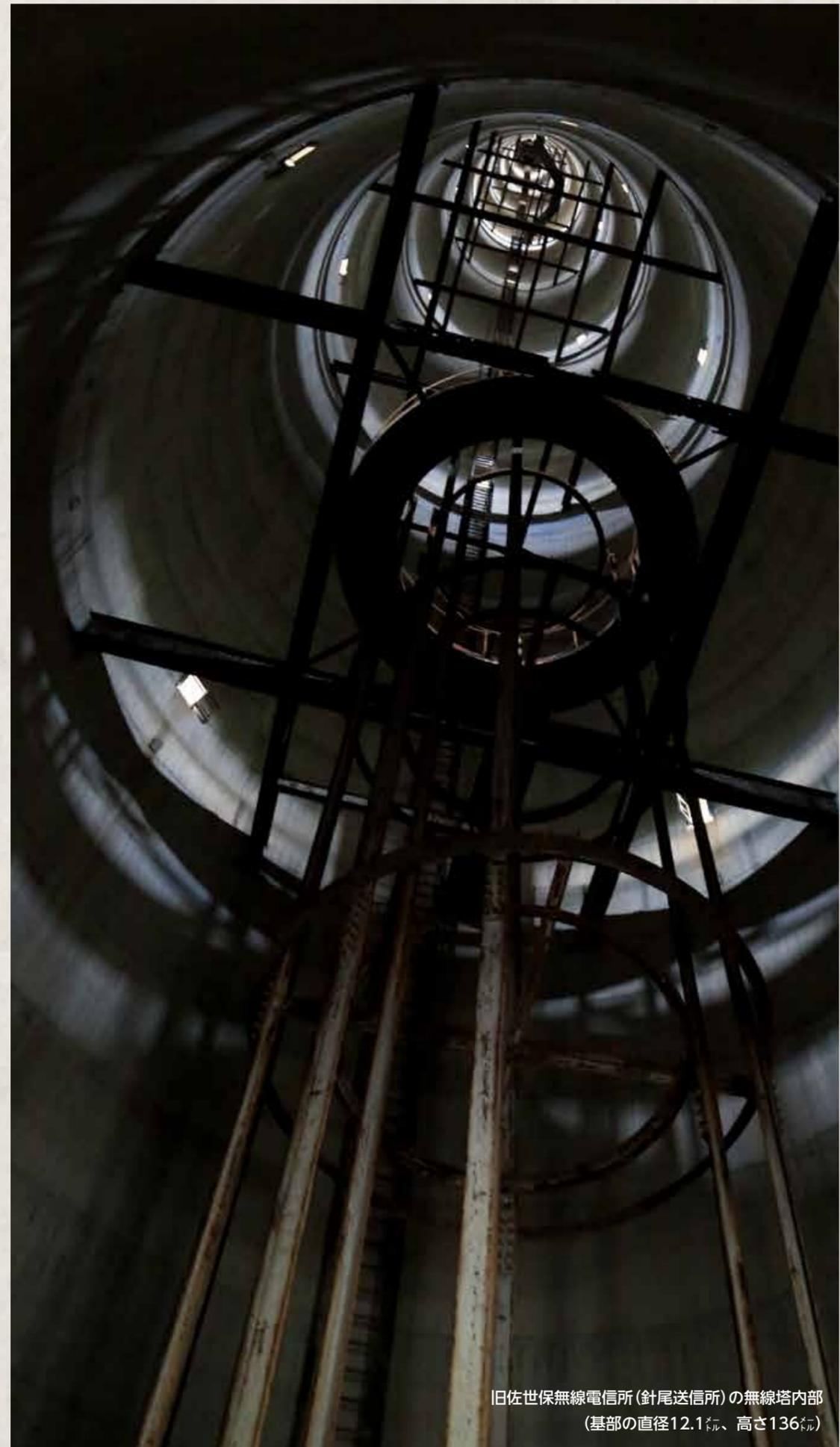


昭和初期の市街地の様子



歴史を振り返る 7つの視点と14の近代化遺産

本市に残る715件の近代化遺産。それらは本市が歩んできた歴史そのものと言えますが、ここではその歴史を7つの視点で振り返り、関連する14の施設等をご紹介します。



旧佐世保無線電信所(針尾送信所)の無線塔内部
(基部の直径12.1m、高さ136m)

1 軍港

明治16年、江戸時代の面影を色濃く残す佐世保湾に一隻の軍艦が入港。後にアドミラル・トーゴの名を世界に轟かせた東郷平八郎が指揮する「第二丁卯艦」で、その任務は日本の西域を守るための鎮守府と軍港の候補地を探すことでした。同年5月には、佐世保に軍港と鎮守府を設置することが正式に決定。近代佐世保の歩みは全てここから始まりました。



米海軍佐世保基地メインベース地区
(旧佐世保軍需部倉庫群、明治21～昭和11年、平瀬町)
明治37年までに11棟が建設され、主に食品や衣料品を保管しました。大正から昭和にかけて増築されています



旧佐世保要塞小首砲台
(明治34年、俵ヶ浦町)
軍港防衛のために設立された陸軍佐世保要塞の7カ所の砲台の一つ。「24センチカノン砲」4門と「15センチカノン砲」2門を装備しました。写真は兵舎などに使われた施設

2 造船

鎮守府設置と時を同じくして鎮守府内に造船部が発足しました。後の「佐世保海軍工廠」です。専用のドックすら持たない状態で発足しましたが、年を追うごとに増強され、最先端の施設・設備が次々に導入されていきました。巡洋艦や駆逐艦、補助艦艇の建造と大型艦の改装を数多く手掛け、当時、世界最大と称された戦艦「武蔵」の建造にも携わりました。



佐世保重工業(株)佐世保造船所組立工場
(旧佐世保海軍工廠造船部組立工場、大正8年、立神町)
外壁はレンガ造ですが、本体は鉄骨造。複雑な鉄骨の組み合わせにより迫力ある大空間が構成されています



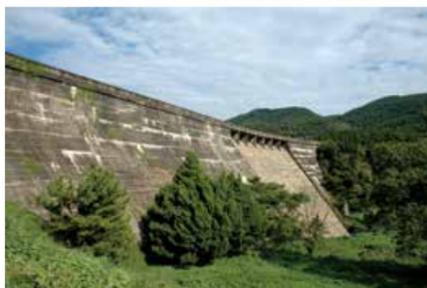
佐世保重工業(株)佐世保造船所250トンの起重機
(大正2年、立神町)
イギリスのサー・ウィリアム・アロル社に発注されたジャイアント・カンチレバー・クレーン。日本に3台、世界にも11台しか残っていません

3 水道

人間が生きる上で絶対に必要な水。鎮守府の設置が決まり、多くの人が押し寄せた佐世保で深刻な問題だったのが、安全な水の確保でした。地形的に水の確保が難しい佐世保において、陸・海軍も佐世保市も何度も水不足に直面し、そのたびに新たな水源の確保に奔走しました。



佐世保市水道局岡本水源第2貯水池
(旧海軍水道皆瀬水源第2沈殿池、明治33年、十文野町)
設計は水道の父と称された吉村長策。日露戦争に備えて整備を急ぎ、農業用の溜め池を貯水池に改造しました



佐世保市水道局菟田貯水池堰堤
(昭和15年、菟田町)
市水道第四次拡張工事で完成した初めての市水道専用貯水池。この貯水池の完成でようやく海軍水道からの独立を果たしました

近代化遺産の価値をもっと伝えたい

職場では近代化遺産や埋蔵文化財関係の業務を担当しています。

佐世保市には近代化遺産が数多く残されています。それらを実際に近くで見ると、当時の歴史や造った人の思いが実感でき、魅了されてしまうことも多いです。

それらの多くは現役で使われており、活用状態は最良と言えるのですが、現役ゆえのいろいろな課題もあります。それぞれの事例で異なりますが、所有者にご理解とご協力をいただきながら、行政としてどの程度まで支援できるのかなど、あらゆる可能性を探りながら、今後も近代化遺産の保存に努めていきたいと思えます。

これまで近代化遺産の調査を進める中で、その最期に立ち会う機会が何回もありました。そのたびに「もっと価値を伝えきれていれば違った結果になったかもしれない」



という思いに駆られました。そのような思いもあり、写真展の開催や写真集の刊行などを行ってきました。今回も3月に島瀬美術センターで写真展を開催しますので、ぜひ足を運んでいただき、近代化遺産に興味を持つきっかけにいただきたいですね。

あつし
社会教育課 川内野 篤

写真展 第10回佐世保市近代化遺産写真展
「近代佐世保130年の軌跡」

本市の近代化遺産を紹介した写真集「近代佐世保130年の軌跡」の発行を記念した写真展を開催します。担当職員が展示写真を見ながら解説するギャラリートークも予定していますので、この機会にどうぞご来場ください。

と き 3月2日(水)～14日(月)
ところ 島瀬美術センター(中2階)
入館料 無料

※ギャラリートーク
3月5日(土)14時、12日(土)14時
島瀬美術センター ☎22-7213



佐世保市近代化遺産写真集
「近代佐世保130年の軌跡」

本市の歴史や文化を象徴する選りすぐりの近代化遺産28件を主に写真で紹介しています。写真集としてだけでなく、郷土を学ぶテキストとしてもご利用ください。社会教育課と市観光情報センター(JR佐世保駅構内)で販売中です(在庫がなくなり次第販売を終了します)。
定価 1冊1,300円(税込)

近代化遺産に関する問い合わせ 社会教育課 ☎24-1111

4

交通

明治5年に東京の新橋駅を起点とした鉄道は、同31年に佐世保まで到達。当時、煙を吐いて疾走する蒸気機関車は人々に近代化を強く印象付けるものでした。鉄道網とともに道路網の整備も進み、軍事物資や石炭の輸送に活躍しました。



九州旅客鉄道(株)大村線南風崎トンネル
(旧九州鉄道(株)第五号隧道、明治30年、南風崎町)
正面に見える石造りの柱は構造上というより意匠的なもの。この時期の建造物の特徴の一つになっています



西海橋
(昭和30年、針尾東町)
戦後初の渡海橋で、径間長が200mを超えた日本初の長大橋。その後の長大橋建設の先駆けとなった「傑作」といわれています

5

通信

近世以前の通信手段といえば、飛脚で運ぶ手紙がほとんどでした。19世紀に電気信号で符号を送る電信が発明され、やがて声そのものを電気信号にして送る電話が発明されました。「新鮮な情報」は近代社会にとって必須であり、通信技術は飛躍的な進歩を遂げていきました。



旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設
(大正11年、針尾中町)
日露戦争の教訓を基に、船橋(千葉県)、鳳山(台湾)と共に整備された長波通信施設。「ニイタカヤマノボレ」の発信については確証がありません



旧佐世保無線電信所電信室
(大正11年、針尾中町)
3基の電信棟の中央に位置し、右から発電機室、二次電池室、電信室と並んでいます。発電機室は天井高9mの大空間で、天井クレーンが残っています

6

炭 鉱

かつて「黒いダイヤ」と呼ばれ、日本の近代化を支える原動力となった「石炭」。佐世保市がある北松浦半島では、江戸時代の終わりごろから石炭の採掘が行われ、製塩の燃料などに使われていました。明治時代になると、より組織的で大規模に採掘が行われるようになり、佐世保炭田や北松炭田と呼ばれて活況を呈しました。



旧矢岳炭鉱石炭ポケット
(昭和12年前後、小佐々町楠泊)
楠泊漁港の脇にあり、船積みする石炭を貯蔵していました。「ホッパー」とも呼ばれ、炭鉱を象徴する施設ですが、現存数は少なくなりつつあります



佐世保市世知原炭鉱資料館
(旧(株)松浦炭坑事務所、世知原町栗迎、大正元年)
昭和45年の炭鉱閉山まで事務所として使用されていました。県北地区で唯一の石造洋風建築となっています

7

施 民 間

近代化遺産というと、産業や軍事、交通に関するものという印象が強くあります。確かにそれらの数が多いのも事実ですが、その対象には、宗教施設や教育施設をはじめ、店舗や民家など、さまざまな民間施設も含まれており、本市においてもそれぞれの時代を反映したものが数多く残されています。



黒島天主堂
(黒島町、明治35年)
フランス人のマルマン神父が設計し、島の信者総出で建設に当たりました。使われたレンガの総数は40万個に及ぶといわれています



(株)純心女子学園聖心幼稚園
(三浦町、昭和5年)
三浦町教会の付属施設として建てられ、鉄川与助氏が設計を手掛けた教会以外では数少ない鉄筋コンクリート造建築の現存例。就学前教育は戦前から重要視されていました